

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人内(高齢部会)で統一した理念を掲げている。毎年、事業所の全体会議で確認している。理念を掲示し、職員に意識付けをしている。職員会議では短期目標を掲げ、取り組んでいる。目標はいつでも確認できるよう掲示している。	事業所開設から4年目、法人高齢部会で統一した理念が作成され、全体会議の場にて確認している。職員会議では理念に添って、月毎に時どきの気づきや季節を意識した内容で短期目標を掲げ、個々に寄り添う介護を実践している。目標に対しては評価を行い、職員間で共有を図りながら意識付けを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事の参加をしている。施設のお便りを回覧板でお知らせしている。今年度から元気会(まめかい)を毎月1回開催し、地域の方との交流につなげている。	近隣や地域に向け、回覧板にて事業所の行事等を周知している。今年度より月1回、地域交流室にて元気会を開催し、地域及び利用者間の楽しみの場として交流が図られている。また、ボランティアによる笹団子作りや中学生の体験学習の受け入れ等、地域の一員として自然に交流が来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	上野祭りの仮装大会に毎年参加している。昨年は、認知症理解を題材にした内容を披露した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告、ひやりはっと、事故、苦情などを報告し、委員の方からご意見を頂いている。内容は職員会議で報告し、自由に閲覧できるようにしている。	運営推進会議は区長、民生委員、家族、包括支援センターの職員、管理者が参加して定期的に開催されている。活動報告や事故報告等を行い委員からも意見をもらっている。現状は利用者本人の参加は無く、職員も参加出来ない時もある。会議内容は職員会議にて口頭で伝達され、会議録については市への報告はあるが、家族へは行っていない状況である。管理者は今後に向けて検討すべきと考えている。	会議は隔月毎に開催されており、苦情や事故報告について、委員の方からの意見もあり、参加者間の共有は図られている。しかしながら参加されなかった家族に向けて、検討されたことなど会議報告がなされていない状況が見受けられる。共に共通認識を持ちながら、本人の望む暮らしや、地域密着事業所の理解を深められるよう今後の努力に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括の職員に毎回参加をしてもらっている。意見やアドバイスを頂き、現状を聞かせて頂いている。	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加があり、現状報告を行い助言をもらっている。今までは困難事例等、困り事についての相談は無かったが、連携を図りながら、いつでも相談が出来る関係作りに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回開催している虐待予防研修は全職員を対象として必須になっている。グランドルールに取り組み、職員の意識付けや予防に繋げている。	身体拘束しないケアについての研修会は年2回行っている。研修会に出られなかった職員については、職員会議時復命を行い、振り返りや理解を深めている。現在2名の方がセンサーマットを使用している。マニュアルを活用しながら慎重に対応している。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年3回開催している虐待予防研修は全職員を対象として必須になっている。グランドルールに取り組み、職員の意識付けや予防に繋げている。短期目標に掲げ、職員間で声をかけている。	虐待マニュアルは必要時見直しを行っている。法人のグランドルールがあり、それに向け、毎月短期目標に重点項目を掲げて全職員で取り組み、不適切ケアについて話し合う機会を持ちながら虐待の防止に努めている。ストレスチェックや、パーソナルテストも行い、職員の精神面についても注意を払っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の研修に参加し復命研修をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に重要事項説明書と契約書の説明をしている。自宅訪問をさせて頂き、入居される上での不安や疑問にお答えしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時には苦情窓口設置や意見箱の説明を行っている。頂いた内容は広報誌に掲載している。また担当者会議や日頃からご家族と連携を図り、要望や意見を伺っている。伺った内容や意見は会議などで情報共有し検討している。	家族からの意見、要望は面会時や電話等を通して伺い、職員会議にて共有を図っている。またサービス担当者会に参加してもらい、出された意見には丁寧に耳を傾け、処遇に反映させている。意見箱の設置等、日頃より外部からの声を聴く姿勢を大切にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務や職員会議、人事考課面接の機会に意見や提案を聞くようにしている。意見は職員会議で検討したり、事業会議に報告し、施設運営に反映させている。	職員意見は日頃の業務の中で聞いたり、個人面談時に伺い、記録に残しながら、出来ることから事業に反映させている。意見については報告を受け改善に向けて努めている。また事故防止に係るセンサーマットの購入についての要望等、提案や意見を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	法人の定める就業規則や給与規定に基づいて運営している。人事考課制度に取り組んでいる。個人目標を設定し、向上心を持って働けるよう支援している。休暇の取り方も調整をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に何を学びたいか、法人内外の研修の希望を聞き、年間計画を立てた。外部への研修も多く参加できるよう調整をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新潟県グループホーム協会に加盟している。法人内のグループホームと連絡を取り合っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人と面会をして話を聞いている。可能な場合は施設見学に来て頂き、不安に感じている事等を伺い、安心して頂けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学などを随時行っている。ご家族の不安や困っていることなどを伺いながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネジャーから入居前までの生活の様子を確認している。またご本人、ご家族の要望等を確認し、必要な支援が提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意思を尊重し、意見を聞きながら関係りに努めている。ご本人の出来ること、得意なことをして頂き、役割を持てるような支援を心掛けている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の様子や相談事などは、面会時や電話でお伝えしている他、毎月の手紙で報告している。受診や日用品の補充などはご家族が行っている。誕生日はご家族の都合を伺い、一緒に過ごして頂いている。	家族には面会時に日頃の様子を伝え、また電話や、文書での連絡も密に行っている。時には精神的な安定が図られるよう、家族との絆を大切にしながら、共に過ごす時間を持つことで、落ち着く方も居られ、家族の協力を得ながら、共に支える関係作りに努めている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日頃からご家族や友人などが面会に来られている。	以前買い物に行っていた店や床屋に行く等、要望に添い継続に努めている。かかりつけ医については入所前の医療を継続している方が4名と半数近くおり、また友人が訪ねて来ることもあり、馴染みの関係が途切れないよう、日々のケアを通して支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性や性格等を把握している。関わりの中で職員が間に入り、会話の橋渡しをする事がある。また個人の時間を尊重している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も野菜を届けて下さるご家族と交流している。施設行事のお誘いをしながら関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人に意向を聞きながら支援をしている。困難な場合はご家族に相談し、検討している。	入所時の本人、家族からの聞き取りやケアマネジャーからの情報、その後の面会時の会話等の中から、思いや意向を汲み取るようにしている。日頃の会話や表情の中から本人が大切にしているものを、職員は同じ価値観を持ちながら、意向の把握に努めている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前情報で今までの生活を職員間で共有している。改めてご本人やご家族から伺い、グループホームでの生活や環境が、ご自宅で暮らしていた時と近くなるように努めている。	若い頃のエピソードや生活についての拘り等、家族やケアマネジャー等の情報をもとに、その人らしさを大切にしたい支援に努めている。共用スペースには利用者手作りの座布団が敷かれ、食堂の壁には刺し子を飾る等、馴染みある暮らしに向けた環境作りに努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートを活用し、過ごし方、出来ること、支援が必要なことを職員間で共有し、対応している。定期的に見直しをしており、現状に合わせた対応に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議を開催したり、アセスメント、モニタリング、24時間シートを見直す際は職員間で意見を出し、反映している。担当者会議で御本人やご家族の意向を伺い、介護計画を作成している。	入所時には居宅のケアマネジャー等より情報を得て、面接・アセスメント等により暫定プランを策定している。本人・家族・職員・ケアマネジャーが同席し、本人の意向をできるだけ確認しながら初回のサービス担当者会議を行っている。	入所後のサービス担当者会議後、3ヶ月・6ヶ月のモニタリングを丁寧に実施し記録を整備している。参加できる家族には参加をお願いしているが、電話での意向を聞いて行うことも多く、職員中心でモニタリングを行うことも多い現状が窺える。今後は、できるだけ、家族の訪問に合わせるなど、本人・家族に関わる関係者を巻き込みながら、計画を作成されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間シートに沿って記録をしている。申し送りを行い、情報共有に努めている。個別ケアに取り組み、職員会議で検討、振り返りを行い、介護計画作成につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時の受診で、ご家族がすぐに対応できない場合は状態報告し、職員が対応している。散髪や日々の買い物等の希望がある際は日程を調整しながら対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加や、ボランティアとの交流も少しずつ取れてきた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日々の様子などを状態報告書としてまとめ、かかりつけ医に伝えている。その際はご家族にも情報共有し、受診時に相談しやすいように配慮している。	本人・家族の希望する「かかりつけ医師」への受診が基本である。受診時「利用状況報告書」に必要な情報を記入し、利用者・家族と医療関係者と情報を共有している。また、棟続きの小規模多機能事業所の看護師やかかりつけ医、薬剤師にも相談している。薬剤師による居宅療養の薬管理をお願いするなど、医療との連携が、スムーズに行われるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームに常勤の看護師は配置していない。施設内の看護師に必要時相談をしている。内服薬の相談を薬局に問い合わせたり、状態に応じ、かかりつけ医に相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必要な情報を病院に提供している。随時、地域連携室と連絡を取り合い、状態報告や退院に向けての相談をしている。カンファレンスに同席し、退院後のケアについて職員間で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、医療の必要性が生じた時の説明をしている。著変時などご家族に状態報告、相談をしている。看取りについては対応できていない為、ご家族と連絡を取り合い、支援の方向性を決めていく必要がある。	入所時・契約の説明に説明しているが、看取りについて具体的には対応できていない。現在は法人で行う「看取りケア」の職員研修に、今年からは2名参加している。今後も継続して支援体制を整える必要があると管理者は考えている。	管理者は昨年の外部評価の「現状における課題」として「重度化・終末期における方針」を目標にしているが、進捗していない現状が窺える。今後も継続し、職員研修会に参加促しながら、早急に「看取りケア」への具体的な取り組みを期待したい。
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の研修会に参加している。復命研修を行い、必要時に対応できるよう確認をしている。	急変時や事故発生時の各種マニュアルの整備はされている。連絡網確認や誤嚥の研修も行われており、同時に「食中毒・脱水・感染症・冷蔵庫の食材チェック」など具体的な研修が行われている。事業所にはAEDは設置されてないが、職員も法人が行う研修に積極的に参加している。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会が中心となり、訓練計画、実施をしている。運営推進委員の方から見学して頂き、評価を頂いている。地域との協力体制は運営推進会議で相談をしている。	防災委員会が計画・実施を行い、運営推進委員会の参加者にも見てもらいながら意見ももらっている。避難時、皆さんが集うと思われるリビングからの避難を行いやすくするため、スロープを整備した。また、災害に備え備蓄品は3日分・防災のための備品も整備している。隣接の小規模多機能事業所と合同防災訓練が行なわれており、今後は、地域の方や消防団の方などへも協力をお願いしたいと考えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄援助等プライバシーに関わることは、対応や言葉かけに配慮している。短期目標にも掲げ、職員会議で振り返りを行っている。	プライバシーに関するマニュアルがあり、職員全員で、短期目標を1ヶ月ごとに確認している。利用者の人格を尊重することに努めており、日々のケアの中で「人権」や「トイレ誘導時の言葉かけ」など話し合いながらケアに繋げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴を心掛け、一人ひとりの思いや希望を伺っている。その都度、入居者に確認しながら支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人から希望のある際は、可能な限り対応できるよう心掛けているが、場合によっては難しい時がある。その旨ご家族にも報告をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた服装となるようご家族に衣替えの依頼をしている。必要時、着替えの支度を一緒に行っている。また起床時や外出時は身だしなみを整える支援をしている。必要時に散髪の依頼をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえや後片付け等、できることをして頂いている。ご本人の好み等を確認し、代替の食事を提供している。ご家族から頂く野菜や、プランター菜園で収穫したものなど、季節の食材を取り入れている。	利用者はテーブルを拭いたり、野菜を切ったり、食器洗いを手伝ったり、表情良く活動されており食事時間を楽しんでいる様子が窺えた。メニューは利用者と一緒に考え、買い物も出かけ畑づくりも楽しみの一つになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表を作成し、食材が偏らないように注意している。食事、水分量を記録している。水分摂取や、状態をみて補食を提供し、安定して過ごせるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食の声掛けが出来ていない。支援が必要な方にはその都度対応できているが、自立されている方の確認が出来ていない。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の記録や申し送りや排泄パターンを共有し、排泄の多い時間にトイレに案内するなどの支援をしている。パットを使用されている方がいるが、そこから自立に向けた支援が難しく職員が介入している。	利用者の排泄パターンを職員が把握し、できるだけトイレでの排泄誘導に努めている。普段の食事にも、排泄がスムーズに行われるように野菜多めのメニューとなっており、オリゴ糖・ヨーグルトは時々、麦ごはんも時にはメニューに加えるなど、できるだけ自然な排泄につながるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維やオリゴ糖、乳製品、麦ごはん等の摂取、また水分摂取を積極的に取り入れている。医師にも相談しながら、便秘にならないようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望のある方は時間を調整し、対応している。入浴に拒否がある方は時間を置いて声掛けをしている。	午前入浴や午後入浴希望の方がおり、それぞれ本人のタイミングに合わせて支援している。気持ちが進まないときは、入浴剤を入れたり、時間や日をずらしたり、清拭したりして支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温、湿度の調整をしている。ご家族と相談し、季節に合わせた掛け布団の調整をしている。シーツ交換は定期的または必要時に行い、清潔保持できるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を個表に綴り、常に確認できるようにしている。変更の際は申し送り、共有している。服薬支援はマニュアルに沿って行っている。様子について、ご家族、医療機関に報告、相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中でできることをして頂き、張り合いが持てるよう努めている。買い物や外出、地域行事の参加など、気分転換につなげている。プランター菜園の成長を楽しみにつなげている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出を好まない方もおられ、ご本人の希望ではないが普段行けないような場所へドライブに誘う等している。個別外出の他、地域の行事等への参加計画をし、外出の機会が持てるよう配慮している。ご家族との外出、外泊の際も連絡調整し、行っている。	家族とお盆・お正月での外出・外泊や誕生日での外出など、家族からの協力もいただいている。また、日々の中では食材の買い物やミニトマトなどの庭の畑での活動や自然に恵まれた周りの景色を眺めたり、ドライブに出かけたりして気分転換を図るなど外出の支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方のみ所持している。自動販売機で飲み物を購入したり、個別外出やドライブ等で使用している。またその際は見守りをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望がある際は施設の電話を使用している。場合によっては職員が間に入り、伝えることがある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やリビングには季節の花を飾ったり、居心地良く過ごせる空間作りに配慮している。	清潔な生活空間と庭に向けた窓を飾り日陰を作る、グリーンカーテンが、住みよく、居心地よい毎日表現しているような雰囲気が感じられる室内である。利用者が自由に過ごされたり、ご家族との面会時に利用していただけるようにと設えた多目的ホールも解放感十分である。また、今年も、毎日利用者が過ごす時間の多いリビングの工夫を考へており、金魚の飼育、プランターで花を育てたり、いただいた花を花瓶に生けるなど、利用者が生活に関わりながら気分よく暮らしている様子が窺える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	多目的スペースを設えたが、人がいる所が好きなご様子で、リビングで過ごされる方が多い。多目的スペースは面会時などに活用している。リビングでも気の合う方同士で過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力を頂き、なじみの家具を設置している。ご家族の意向に配慮した居室作りをしている。	居室内には大きめの洗面台とクローゼットがあり、利用者・家族が相談しながら自宅から持ち込んだ思い出の品や写真を飾り、本人の作品やバスハイクや散歩に出かけた写真も飾り、それぞれの好み表現され居心地の良さが感じられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全室同じ扉の為、区別しやすいように表札を貼っている。入居者の目の高さに合わせている。同様にトイレの電気、洗面台などの使用方法についても各々に貼っている。		